

---

# 2020年度『日本語教育』論文賞受賞論文

## 非母語話者は母語話者の〈説明〉をどのように評価するか —評価に影響を与える観点と言語行動の分析—〔研究論文〕

掲載号：『日本語教育』177号（2020年12月発行），pp. 17-30

執筆者：柳田直美氏（一橋大学）

### 【授賞理由】

本論文は母語話者の「説明」に対する非母語話者の評価について、観点と言語行動を対象に量的データ（評価データ）と質的データ（談話データ）を用いて検証した論文である。堅実な計画デザインに基づいて丁寧に検証されており、内容はもちろん方法に学ぶ点も多い。本論文の成果は、ともすれば言語的調整の技術論に偏りがちな「やさしい日本語」をコミュニケーションの文脈に戻す力を持っており、日本語教育関係者のみならず、すべての日本語母語話者に示唆を与えるものとなっている。また、本研究が「日本語教師ならやさしい日本語が使える」というバイアスに警鐘を鳴らしている点にも注目したい。「日本語教師らしさの功罪」を客観的に指摘する本論文は、日本語教師の専門性を謙虚に捉え直すための問題提起であり、本学会こそが真摯に受け止めるべき研究であると言える。

#### (1) 日本語教育現場に対する示唆が具体的である。

本研究では、母語話者の「説明」に対する非母語話者の評価データから因子を抽出し、その意義を談話データの観察により裏付けている。日本語教師経験者に期待されがちな言語的な細かな調整よりも、会話へのかかわりの度合いや相手の理解度に合わせた調整が非母語話者の評価に影響を与えているという示唆は、具体的で説得力がある。

#### (2) 新しいテーマにチャレンジしている。

本研究は、非母語話者が母語話者の説明をどのように評価するか、一方向的な聞き取りではなく、母語話者と非母語話者の双方向のやりとりを対象に、非母語話者の視点から調査をおこなっている。非母語話者の言語行動だけに注目するのではなく、母語話者の言語行動を対象とした本研究は、日本語教育研究の対象範囲を広げる可能性を示唆している。

#### (3) 専門領域を超えて訴えるものがある。

行政における窓口対応を意識した「説明」という設定は、基礎研究としての検証を優先するのであれば負担ともなり得る。それを乗り越え、敢えて社会的課題に即した設定を採用した本研究は、日本語教育発のコミュニケーション研究として専門領域を超えて訴えるだけの価値がある。本研究は日本語教育関係者のみならず、自治体等の窓口対応をはじめ、非母語話者に対するあらゆる「説明」場面において有益な示唆を与えるものである。

以上

---

---

## 受賞論文 要旨

### 非母語話者は母語話者の〈説明〉をどのように評価するか —評価に影響を与える観点と言語行動の分析—

外国人住民の急増を背景に、非母語話者に情報をわかりやすく伝えるための言語的調整である「やさしい日本語」についてさまざまな提案が行われている。しかし、それらの調整は情報を受け取る側の非母語話者からどのように評価されているのだろうか。本稿では、母語話者の〈説明〉に対する非母語話者の評価結果を検証し、評価に影響を与える観点と言語行動について分析した。分析の結果、「積極的な参加態度」「落ち着いた態度」「相手に合わせた適切な説明」が評価に影響を与えることが明らかになった。さらに、非母語話者からの評価が高い母語話者と低い母語話者を比較したところ、会話への積極的なかわりや相手の理解への配慮を示す言語行動、そして対等な関係性を前提としたふるまいが評価に影響を与えていることが示唆された。このことから〈説明〉場面においては母語話者の非母語話者の理解度に配慮した対応が高く評価されるといえよう。

### How Do Non-native Speakers Evaluate Native Speakers' Explanations?: An Analysis of Perspectives and Linguistic Behaviors Affecting the Evaluation

YANAGIDA Naomi

The number of foreign residents has been rapidly increasing in Japan. Consequently, various proposals promoting *Yasashii Nihongo* ('Easy Japanese'), which is a linguistic adjustment, have been put forth as a way to facilitate communication with non-native speakers. However a question arises: how are these adjustments evaluated by the non-native speakers who are recipients of the information conveyed? In this paper, I examine the non-native speakers' evaluations of explanations given by native speakers, and analyze their evaluation perspectives and linguistic behaviors that affect the evaluation. The results indicate that "positive attitude of participation," "calm attitude," and "appropriate explanation according to the partner" were perspectives that affected the evaluation. In addition, a comparison of the verbal behaviors of high-and low-rated native speakers suggested that "active engagement in conversation," "verbal behaviors that considered the partners' comprehension," and "behaviors that were based on an equal relationship" influenced the ratings. Thus, it can be concluded that native speakers are highly regarded for considering the level of non-native speakers' comprehension while explaining something to them.

(Hitotsubashi University)

---